

バイオマス活用推進基本計画の目標について

【バイオマスの利用状況に着目した指標】

指標（具体例）	メリット	デメリット
バイオマスの種類毎の利用率 （家畜排せつ物の利用率 下水汚泥のバイオマスリサイクル率）	- 測定が容易。 - 対外的な説明が容易。 - 現在の利用状況等を勘案しつつ、現実的な目標設定が容易。	- 資源作物等のバイオマス利用目的に生産される原料バイオマスについて評価できない。 - カスケード利用について評価できない。
バイオマス製品の生産量 （木質ペレットの生産量） 国産資源作物の生産量	- 測定が容易。 - 資源作物について評価可能。	- カスケード利用について評価できない。 - バイオマスの用途制限につながりかねない。
カスケード利用を考慮したバイオマスの種類毎のマテリアル利用率 （家畜排せつ物の一定割合以上は 肥料等マテリアル利用）	- カスケード利用について評価可能。 - 資源作物等についても評価可能。	- 測定が比較的困難。 - バイオマスの用途制限につながりかねない。

【バイオマスの地球温暖化防止効果に着目した指標】

指標（具体例）	メリット	デメリット
国産バイオマス利用によるGHG削減効果	バイオマス利用促進の意義をアピール可能であり、国民の理解を得られやすい。	- LCA評価が定まっていないものも多い状況であり、目標設定や測定が困難。 - GHG削減効果のみでバイオマス利用のメリットを測ることは不適切。

【バイオマスの地域での利用状況に着目した指標】

指標（具体例）	メリット	デメリット
バイオマス活用推進地域計画（バイオマスタウン構想）の策定数	・ 測定が容易。 ・ 国民運動的な意義あり。	・ バイオマス活用推進の実際の進捗状況を表すものではない。
バイオマスタウン構想の実現度合い （バイオマスタウンのうちバイオマス変換施設を整備した地域の割合 バイオマスタウンにおける地域の取組の市民への浸透状況）	・ 地域におけるバイオマスの利活用状況を評価することが可能。 ・ 構想策定を推進したバイオマスニッポンとの差別化が可能。 ・ 国民運動的な意義あり。	・ 測定可能かつ地域の状況を適切に表す評価項目があるか不明。

【バイオマス製品等の水準に着目した指標】

指標（具体例）	メリット	デメリット
バイオマス製品等の技術水準 （木質ペレットの製造コスト）	・ 測定が比較的容易 ・ バイオマス製品等の普及に向けた努力目標として意義あり。	・ 国のバイオマス施策の基本的な目標とするには対象が限定されすぎている。